

岩例会 in 小川山

この夏の目標としてひそかに抱いていたもの、それがマルチピッチの経験を積むことだった。ちょうどそこに岩例会の募集があり、現実になりそうだったのですぐに飛びつく。しかしここでちょっとしたハプニング。掲示板の名前を旧漢字にしていたおかげで、どうやら「・田」と表記閉されてしまったらしく、栗山さんには「誰だ？」と言われてしまう。それを見た「・田」と誤変換されていない方たちが、心やさしくも私をかばってくださり、栗山さんを「新人の名前を覚えてないなんてひどい！」と非難するという事態に。すみません、ご迷惑をおかけしました……。

さてその時の私は、マルチの経験を積むという目標に掲げているわりには、恥ずかしながら技術的な面で足りていないことが非常に多かった。正直栗山さんのパートナーとしてやっていけるか不安だった。しかし、多くの Pre に誘っていただいたことで、少しずつ自信をつけていく。もちろん完璧とまではいかなかったが、まさに突貫工事、どうにかそれなりの様になった。

小川山はクラックが有名と言うことで、クラック主体の練習に励んだ。天狗の挽き臼の蝦夷生まれで RP を果たし、一応の小川山への切符をつかむことができた。この RP はすごい黄色い声援に後押しされたクライミングだった。(栗山さん、圭子さんありがとうございました！) 自分も良い声援を送れるようになろうと思った。(?)

そして本番、小川山ではおもしろおっちゃん 3 人に囲まれ、楽しかった。こんなことを書くと、「本当に？」と聞かれそうだが、とにかく私は楽しんでいました。テン場では唐突に私の恋愛相談室なども開催し、盛り上がった。

肝心の岩の成果はと言うと、1 日目、自分の中では 10. a を OS できたことが大きな成果となった。ただ同時に自分の力不足も随所で感じた。2 日目、私の心はマルチピッチのウスノロマンに打ち砕かれてしまった。2pitch 目の 10. d に全く歯が立たなかったことで、その先残り 4pitch を残し完登できるか不安になってしまった。ただ一部の人は疑うかもしれませんが、意外と栗山さん、励ましてくれます。そのおかげ？でなんとか完登。頂上は本当に気持ちの良いところだった。

今回の岩例会を振り返って思うことは、まず修業せねば！ということ、そしてこれは再確認になるが、やはり山では目標を掲げて Pre を組み、本番に挑むというスタイルが一番楽しいということだった。来年は多くのパーティーが生まれ、一緒に行けたら本当に楽しいでしょう！

最後になりましたが、Pre でご一緒した圭子さん。カムもお借しいただき大変お世話になりました。小川山でご一緒した、田中さんドギーさん、楽しいテン場でした。連絡はとらない方が良かったみたいです…。そして栗山さん、お世話になりました。来年までにはより強くなりたいと思います。

濱田 裕章

小川山

2012年9月14日～9月17日

どうも秋は入山し難い。学会や研究会が「目白押し」である。ちなみに「目白押し」とは…秋から冬に群れをなして木に止まる性質がある「メジロ（鳥）」のことを「目白の押し合い」と言っていた…ってなことで、秋は仕事が押し合いへし合い…「へし合い」って何だ？…へし合いとは「押し合い」と書き、意味は押し合いと同義らしい…話をはよ進めんかい！ という訳で週末の「日本薬物治療学会（in 札幌）」はパスして出発したのだった。例会は参加しなくちゃね。参加者はL栗山 土岸 濱田 田中の4人。

屋根岩3峰 南稜神奈川ルート

（本当は南稜レモンルートを登るつもりだった：パートナーは土岸）

そもそも屋根岩3峰自体が分からない。屋根岩2峰の「セレクション」は人気ルートであり、大人数が取り付いているので、それとすぐ判別するのだが、3峰は2峰の背後から回りこみ…ここは「ジェットストリーム」だから…えーと、えーと…ルート・ロスト～～！ 大変イライラするんですけど！ 結局けもの道を下って、それらしき岩峰があったが、人っ子一人いないのでここがそうなのか全くもって不安。

1P：左向きワイドクラックをいく。とても簡単。ピンが2か所あって。立木でピッチを切る。(30m5.6)

2P：レモンルートはこの立木から左へ水平トラバースしなければならなかったらしいが、クラックが左に回り込んでおり、その先は??の興味に駆られてすのまま進む。(20m5.6)

3P：出だしのフレイクの処理が少々怖い。進めば進むほどフレアしていく感じが嫌な感じだったが、高度感があって面白い。(30m5.7)

4P：右のチョクストンから攻めたが、ワイドもワイドでプロテクションが取れず、ジタバタした末、左のフレイク状の垂壁からいく。あきらかに脆く、落ちたらプロテクションが吹っ飛ぶ恐れあり。結構パンプした。体感的には5.9あったか。(40m5.8)

5P：尾根上を進み、途中5mくらいの垂壁をプロテクションなしでいく。(50m5.6)

6P：ピークまで左から回り込む感じ。(30m5.5)

2峰の方向へ2ピッチで懸垂下降。ガイド本には「マルチピッチのロープワー

クの練習に…」などと記載されているが、静かで多彩な良いルートだと思う。



(南稜神奈川ルート：3Pの土岸)

屋根岩 2 峰セレクション

こういうメジャーなルートはあまりそそられないのであるが、帰路でもあったし、取り付いているパーティも見受けられなかったので取り付いた。

1P：きれいなクラックであるがグレードの割に難しく感じた。ややフレアしていて、こういうのは練習しなくてはいけないと痛感した。ピッチは切らずそのままスラブを進む。ロープが重くやはりスラブはピッチを細かく切らないといけない。2m隣のルートを登る女性の恐怖が私に伝染しビビる。スラブは怖い。

(50m5.7)

2P：頭上は絶望的なスラブ。敗退ビナがぶら下がっている。5.12Cのスラブっていったい…。あれは登れないでしょう。右へトラバースしチョックストーンを這い上がる。これはお手軽。(40m5.7)

3P：先行パーティ(1パーティ：6人)待ちとなる。お世辞にも上手くはない上、ロープワークが酷い。5人目がバックロープを2本引っ張っている(ラスト含めると3本引っ張る)という意味が分からん。昼飯を食い、メールなど打って30

分待つ。出だしのワイドクラックが良く分からず、立木でズルした。私は苦手
(40m5.7)

4P : 3m 少し登りクラックを 10m 降り立木でビレイするだけのつなぎピッチ。
先行パーティ 30 分待つ。(15m5.5)

5P : ある意味このルートのハイライト。水平トラバースをレイバックでいくが、
ホールドはあるので、高度感はあるが快適で楽しめる。先行パーティが詰まっ
ていて 1 時間近く寝て暮らす (20m5.6)

6P : ワイドクラックでキャメ 3 番があると良いが、取り付きにデポしてしまっ
た。後の祭り。下部で 2 番を 2 つ使ってしまい、1 番がナッツ状態である。マジ
で落ちるかと思った。上部も緩斜面だが侮れず。(30m5.9)

ほとんどのパーティが下降用のスリングがある立木から懸垂している。我々
は 60m のシングルロープ 1 本しか持参しなかったのも、頂上からワイヤー沿い
にルンゼを 50m ほど下降し、そこから 20m の懸垂下降、登山道へ降りた。

セレクションは人気ルートだけに楽しめたが、ここまで待たせられると私の
マイナー指向に火が点くのだった。



(4P 目 : 先行待ちでダレる土岸)

(文責 : 田中)

2012 岩例会 小川山 “ウスノロマン 5.10 d”

L : 栗山、M : 濱田

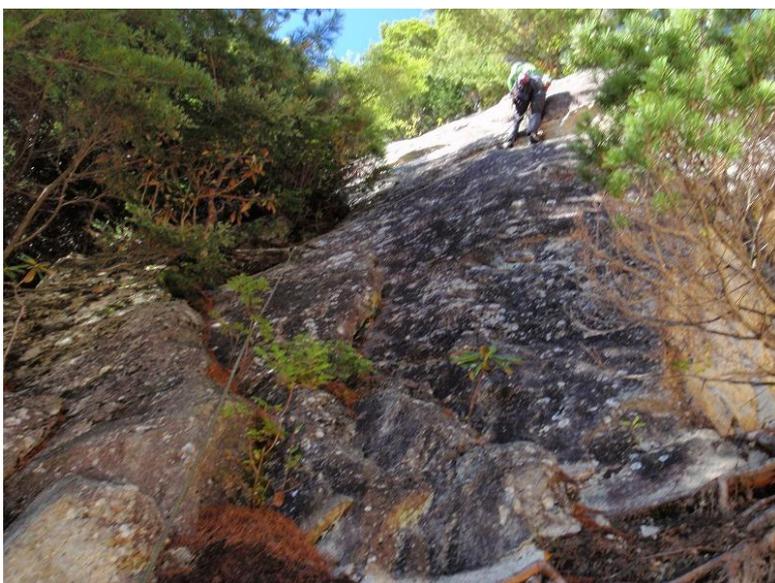
9月16日

朝、7:30 テン場を出発、林道から八幡沢を詰める。トポでは“頭上に大滝が近くなったら”とあるが、それらしきものは確認できなかったが、顕著な二股を右へ取り、ガレを登ると正面にカツブシ岩が見えてきて、取り付きとすぐ判った。8:30着。

ルーとは全く誰もいない貸し仕切り状態、余計な荷物をデポし、準備をする。奇数ピッチが比較的簡単なので、濱田君にリードしてもらおう事にする。9:00スタート。

1P (5.10b : 濱田)

奇数ピッチの核心がこのピッチなので、朝一から少々可愛そうだが、気合いを入れて行ってもらおう。簡単なスラブから始まり、核心のフレーク部分に入る。支点は全てRCCボルト。フレークでレイバックして頑張るが“落ちまーす！”の声。オイオイ……。頑張って下がってテンションを掛けるように指示。

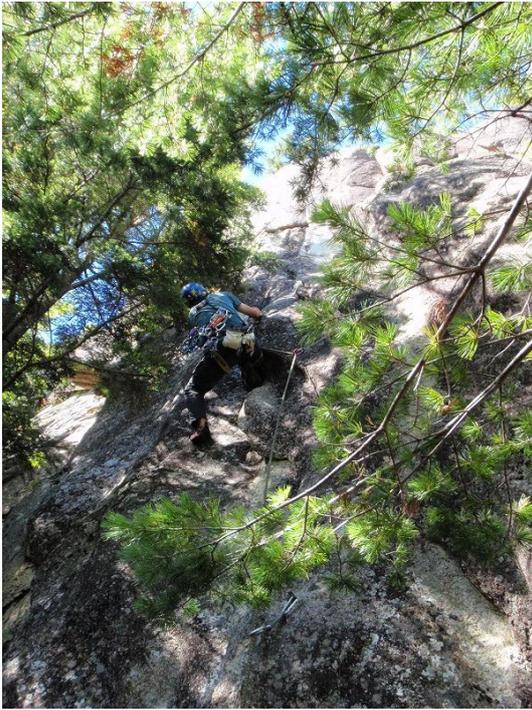


←フレークのパートへ入る濱田

テンションを掛けた後は落ち着いて抜けた。濱田が見えなくなり、そろそろビレー点かな……。と思ったその時、ガツン！とテンションが掛かる。落ちたのか？“大丈夫か～！”の掛け声に“大丈夫で～す！”の返事。“そこら辺で切るんだぞ～！”と教えて、ピッチを切らせる。フォローで上がって聞くと、まだ短いと思い2P目に入ってしまったとの事。リングボルトに1ピン目を掛けて、頭を下にしてフォールしたとの事。無事でなによりです……。

2P (5.10d : 栗山)

このルートの核心である。1m程離れた垂壁へ乗り移りスタート。1ピン目のリングが楕円に変形している。こわ～い！正対では登れないトリッキーなルートだ。ボルトは全てリングかRCC。先のホールドを良く観察して慎重に且つ思いきって登る。傾斜の落ちる所の手前では、つい声が出てしまった。なんとか、10dフェイス部分をクリアー、傾斜が落ちて、ビレー点が見える。最後の5m程が10aのスラブ。これが何とも難しい……。めぼしいスタンス、ホールドが無い。なんとも情けなくAOしてしまった。



←10d フェイスを登る栗山

フォローの濱田も荷物（下降用のロープなど）の重さにやられて、かなりの時間を費やす。ピレー点に着いた時には“もう降りたいです・・・”と泣き言を言っていた。

なんとかなだめて次のピッチへ。

3P (10a : 濱田)

ここからクラックのピッチである。イトウコーナーのテラスへ上がるのに、大分苦しんでいる。上で使いそうだが#3を決めてテラスへ上がろうとした時、フォール！いや～#3決めて良かったね。“降りるか～？”と声をかけたら、“行きます！”と返ってきた。がんばれ～！！

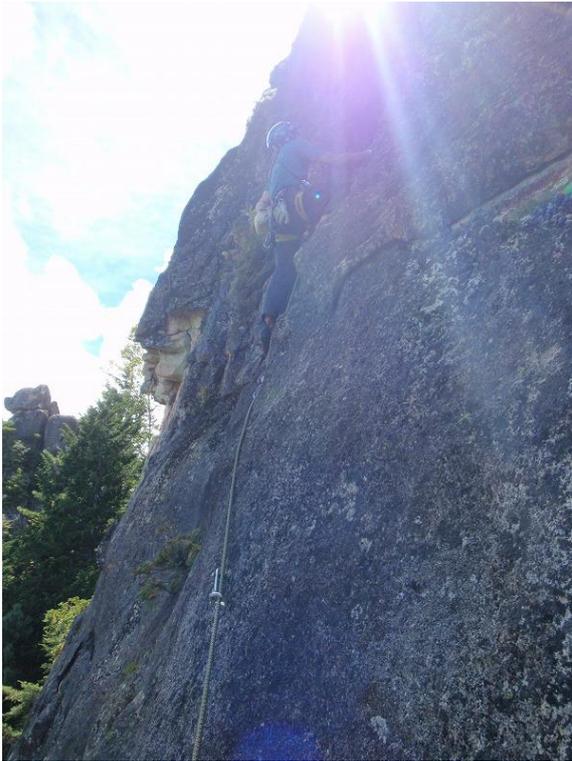
テラスへ這い上がり、イトウコーナーへ。ハンド～フィストのコーナークラックだが、脚が張りずらく難しい。AO交えて何とか抜けた。



←イトウコーナーを登る濱田

4P (5.10b : 栗山)

途中でアカツカクラック 10a を登るピッチだが、ルートが良く判らない。だいぶ悩んだが、普通ここを上がるよな～と言うラインを上ると、アカツカクラック有りました。このクラックは快適なハンドクラックで抜けてダイクに立ち横へ、ここからが問題の 10bのスラブだ！たかだか3m程なのだが、ペロンである。またしても弱っちい私はAOしてしまった。



←アカツカクラックの入り口の栗山

5 P (5.7 : 濱田)

易しいがランナーが取れない怖〜いトラバースである。ちょっと上を回りこんでクリアー。ピレー点で景色を眺めながら清々しい顔の濱田。“もうリードしなくていいと思うと泣きそうです”と可愛いコメント。

6 P (5.10 b : 栗山)

オリジナルルートは10aのRCCボルトラインだが、その横のバリエーションラインがハンガーボルトが有り、楽しそうなので、そっちを行って見ることにする。結構難しく感じたが、なんせステンボルト！気持ち的には相当楽だった。体感的には10c位有りそうな気がしたが後で調べると、10bとの事だった。荷揚げして頑張った濱田には空荷で楽しんでもらった。



←ここから上が難しい。右のヌン

チャクはオリジナルルートのラインで、それを外して、直上ルートを選んだ。



←頂上にて

13:00頃頂上着。フリーでは登れなかったが、なかなか楽しいリートでした。

下降は頂上～5P終了点へ20m、5P終了点～40m、そこから～40mでバンドを歩いて1P終了点、1P上を20m、の4回の懸垂で取り付きへ戻った。